

人口問題研究所
研究資料第十三号

昭和二十二年三月三十一日

カール・サックスによる

世界人口問題に関する概論

(Population Problems By Karl Sax)

厚生省人口問題研究所

人口問題

カール・サックス著

天主教ウツシエルによれば人間は紀元前四千四百年に創造せられたといふことである。我々は次のことを仮定してみよう。即ち今の天主教の言葉が正しいものであること。パンドラ姫 (Pandora) (ギリシヤ神話に出てくるものでジキピター神が火と鍛冶の神に命じて造らせられたメチリスが火から火を盗んだのを罰するため諸神が地上に降せる女) は疫病に対する害悪の本源を人類に釈放しなかつたこと。シアレス神 (Ases) (ローマ神話で穀物豊穡の女神) ギリシヤの Demeter (当る) は無限の食料供給を反給してきたこと及人間は世界の幾々の部分へ自由に移動し得たこと等である。

かかる條件の下にアダムとイヴの子孫は二十五年月毎に世界の人口を倍にすることができるといふ。しかし乍ら病氣や飢饉や戦争にもかゝらば世界人口が百年間に倍加せられた時、十九世紀に於ける現代人によつて維持せられるものと等しい人口増加率を我々は仮定してみよう。この比較的調節せられた増加率でさへもその結果として紀元前千年には二百十億以上の人口に即ち現在の状態に達したてもあらう。更に四百年下れば全世界の人口密度は一平方哩に廿七人となり、即ちヨーロッパの中もつとも稠密な人口を持つた国々の名のと似て等しいものとなるであろう。西暦紀元の頃は世界人口は世界の地表面の各平方哩に計して四万三千の人口となるほど増加するでもあらうし、紀元八百年頃は地球の全表面上全く立錫の余地がなくなつたでもあらう。さて我々は次のことを知つてゐる。即ち人類に属するものが数十万年間にこの地球に生活してきたこと及び眞正人類が少くとも四万年間は生存してきてゐることである。人間の早期の存在が確定的であることは、かゝる人類の人口がせめて緩慢に増加したことも明かである。疾病とか飢饉

とか懐疑などは一つの重税を課してあることによる。多分人間は生物学的なそして環境論的な同一の事情が許すかぎり迅速に増大して行つたのであらう。しかし世界人口は一八二五年頃になつて始めて十億人に達したのである。一世紀以上に加つた大人口は殆ど倍加したのである。この迅速なる膨脹は科學的方法を農業、工業、輸送及医薬に適用することによつて可能ならしめられたのである。この増加率は過去五十年の間世界の多くの部分に於いて減少はして来たが全体としてあるとき、世界にとつてその人口は毎年百分一%の割合で増加しつゝ、あるのである。即ちその率は七十年毎に人口を倍にする割合である。ある地域では人口増加が早く他の地域では減少しつゝ、ある。かゝる色々の地域における差別的な増加率と人口密度は經濟的な軍事的な軋轢をかゝす諸問題を生ずるのである。

(1)

人口増加を決定する根本法則は凡そ百五十年前マルサスによつて公式化せられた。マルサスは云ふ「私は全く二つの公理を作り得ると思ふ。第一は食物は人間の生存に必要であること。第二は性の情慾は必要で現在の状態のまま殆んど減るであらうと云ふことである。彼は續けて「これが二つの法則こそは我々が人類に関する何等かの知識を持つ様になつて以來、自然の固定した法則である。かの如くに思はれる。そして我々が今まで彼等の中に何も変化を見ないために我々は彼等が過去にありし存在を何時かは止めるであらうと云ふことを結論する何等の權利をも持つてゐないのである」と

マルサスは更についでに次のことを示すのである。即ち人間をも含めて凡ての生物に対する傾向は其計の余剰を超えて數に於て増加することであり、而も何処でも「抑制作用」が人口増加を制限するために働らくものであると云ふことである。人類の人口の場合には飢饉、病氣、戦争及墾

兎殺しが抑制作用として行われ、北米が抑制は現代でも世界の肉甲子部分に占めるの範圍に達して作用しついでである。この後秋の穀類に於ては大なる進歩がなされ、又多くの國に於ける人間の生命は奪取されて中米期に於て優勢であつたものを殆ど倍にしてゐる。歐米も夫等が如何に完全に無益なものとなつたかを我々が心得する時は除去せらるゝであらう。人口増加に對する防止抑制は世界の多くの部分に於ては行はれぬやうになつてゐるが最も過剰なる人口地域に於ては一般に行はれてゐる。人口増加に對する積極的な抑制のや食物供給は最も根本的要素である。

地球の地表面積の五千万平方哩の中耕作又は効果的な牧場に處してゐるものは僅かに二〇%程である。北米の五億エーカーの畑地が殆ど人間の食物供給に對して農業に頼ることにならば世界の將來人口を支へねばならぬのである。我々は現在二十億人の世界人口を支へるために既に四十億エーカーの耕地を、即ち一人につき二エーカーの耕地を使用してゐる。かゝる量の利用しうる土地を持つてゐるにも拘らず世界の國民の約半数の生活とあふむの生活水準以上には殆ど出でゐないし、多くの人は頻りに飢饉に悩んでゐるのである。平均穀物收穫率に基礎をおいて評価して見れば、合理的な生活水準なるものは次のことを示してゐる。即ち一人に食物、衣服及その他必需品を供給するたためには二五エーカーの耕地が必要であると云ふことである。もし可能ならば耕地の全部が耕作せられれば、我々は持つてもあらう。それには逆境地より以上の若干のものを我々の現在の在居人口に對して我々は持つてもあらう。それには逆境地の活丹や産業もものと世界の寒い地方にまで拡大すること等が考へられ、これによつて全耕作面積は百億エーカー即ち頭割りで殆ど五エーカーにまでなることは可能であるが、この附加さ

水た土地の多くは現在使用してゐる土地程は生産高がないといふことは明かである。もし合理的に高い生活水準といふものが包摂する民族の包摂する人々によつて達成せられるものであるなら、現在の割合に於てはへも人類を人間が彼の食物供給を農業に依存する限り、人口はその耕地の総量と生産とを比べたものによつて限定せられるであらう。化学者が空気、石炭及錳屑から食物を製造することが出来たり、又生理学者が生存せる植物から独立に食物の光学的合成による製造を促進せしめることが出来るであらうといふことは可能性あることであるが、しかし少くも近き将来に於ては我々は農業に頼らねばならぬ。新しき技術的知識と新しいより好い收穫が農業を援助するであらうが、しかし新しき草類の多くは非常に過度に評価せられてゐる。人類の食餌に於けるプロテインやビタミンの根源としての酵母の生産は将来有望な発展性をもつものであるが、しかしその生産に使用せられてゐる砂糖又は糖蜜は更に生存緑色植物によつて合成せられねばならぬ。酵母が一ポンドにのみ十仙を費する様に生産せられるかも知れないといふ予言は、人類の消費に於て準備せられるパン製造業の酵母には一ポンドにのみ一仙と一帯、又ビール醸造業の酵母には一ポンドにのみ一仙と二帯の現在の小売価格の点からみて過度に樂觀的であるやうに思はれるのである。新聞記者達は *Agaroparics* (水耕法) 及 *Verma Lization* (春化処理) 等によつて増加する生産に於いて確信をもつて記述してゐる土壤のない農業による收穫産物は生物学的にも経済学的にも極限を決定してゐる。ところが南北歐州前アメリカ合衆國に於て発見されたものは、この春化処理はロシアに於てのみ使用せられて居り疑ひもなく経済的価値があるものである。

或る人口に對する食物と衣服生産するに必要な土地の計算には、これら二つの変数を含んでゐる。即ち土地の生産性と生活水準とである。これら二つの要素は世界の種々の部分に於て非常に

変化してゐる。日本や支那のある地方では耕地の一エーカーが三人を支へてゐるが、^{三五}しかし一

エーカーに付その收穫は高くして生活水準は心く。ヨーロッパの更に生産的の國々、例へば

イギリス、ドイツ及びフランス等は食料輸入を許可して復し耕地一エーカーに付約一人を支へるこ

とが出来ないのである。母都合なる氣候、樂約耕作及豐穰なる土地はこれらの農夫に一エーカーに

付在幾平均を越えること殆ど五〇%の收穫を生産させ得るのである。イタリーでは又一個人に付

き耕作土地は一エーカーである。しかし土壤は貧しく食餌標準は低いのである。アメリカ合衆

國では頭割りで耕地三エーカー以上を持ち。一エーカーに付我々の作物收穫高は世界平均を越え

るに極めて僅少である。この國の食餌標準即ちカナダ、オーストラリア及びニュージーランド等

では在思中で最も高いのである。一エーカーに付三人以上の人口が一年に付三毛作が行われ、生

活水準 (Standard of Living) がは計水準 (Subsistence Level) と殆ど同様な地域に於てのみ今や支へられてお

るのである。合衆國の人口密度がほとんど正確に在思、穀の大口密度であり一エーカーに付わねくの作物收

穫高が世界平均を殆ど超えてゐない以上、我々の農業生産と消費を分析することは殊に興味があ

る。我々は一個人に付耕地の約三エーカーを使用してゐるのであるが未だ我々國民の多くのもの

のに對して適當な栄養的の標準を持つてゐないのである。一九四〇年の農林省の年報によれば合

衆國の全家族に對する好まぬ栄養的の標準は少くとも更に七〇%のトマトヒントロソ果物、更に一

〇〇%の綠葉及黄色い野菜が必要であり、そして多分日常生産品の現在の消費を倍にするもので

あらざる。徴兵業務についてある旅団長ハートシエイ (Emms) は試験した最初の百万人の中その

三分の一は栄養不足に陥すべき病氣のために拒否せられたと報告してゐる。これらの規定食の不

足は最初経済的要素に起因してゐるが、その保護食物は生産と配給に於て比較的の高い労働費を

必要とするものである。我々の農地面積を感知しうる程に増加させることは出来ぬ。何故なら安全に而も経済的に使用せられうる全耕地は総額を一個人につき三エーカーに達してあるからである。一九三八年の農林省年報によれば最上の中耕実施をすれば現在の耕作土地の凡そ三億四千五百万エーカーの耕作を許すであらうが、しかし又別な一億八百万エーカーは牧場、農林地、森林地、排水及び灌漑せられる他の土地を使用することによりて附加せられるものであらうと。この追加された土地の多くが利用せられるやうになるには相当な時間と努力を要するのである。

一エーカーに付作物收穫の若干の増加は期待せられうるが、ごく最近までには決して改善せられぬ作物植物や、農耕法によりて殆んど五〇%の收穫見込増加が土壤の肥沃性の腐蝕や滲漏のため土壤生産物の減少によりて非常に相殺されてある。農林省の土壤調査科長であるケヤールス・E・ケロツグ博士(Dr. Charles E. Keating)は最上なる農耕法を併用して適当な肥沃法を行へばその結果作物收穫高に於て二十五%増加すると評価してある。しかし我々は如何なるものでも耕作を大いに強化すれば増加した收穫高に対する全比率を脱して価格といふものを増大せしめるかも知れないと云ふことを体得しなげればならない。我々の農耕の多くは自然の閑致であり、又永久的な産業組織なら何れにも採用せられねばならない適当な土壤保存実施は、必然的に耕作をこれ大耕作面積を要せずしめて生産の価格を増加しなげればならないのである。

我々の戦前の正常なる食餌習慣をいつけるならば、我々の食物供給を占めるたが個人に付三エーカーの耕地を我々は使用するであらう。食事の形式に於て食物を占めることか一般に基本食料作物を占めるに要したものの四倍乃至十倍かゝつてある以上、我々は我々の食事消費をかへて頭割り二エーカーの土地で適当な満足できる食餌を更に生み出すことができないのである。食餌標準を平均ヨロリパ人の水準にまで還元すれば必要なる土地を凡そ一五エーカー位にまで還元する

せることかできざるであらう。もしも我々がアジア人の食餌に比し得るやうな穀類及野菜の食餌に
応じたいと欲するならば我々は現在の生産水準を半エジプトの土地から必要なカロリーやカロテ
インを支給することか出来るでもあらう。更に合成されたグライタミンや附加された無機物質で補
足される。斯る食餌は栄養的に適当なものなることか可能である。栽培した凡ての食物
を使用すること以外に飢饉の年には何ら貯へばないし。この制限された面積では衣服や他の必需
品にどうして必要な植物的及動物的生産物を適当に与へることは出来ないであらう。作しわれ
がわれ／＼の食餌をもつと低い水準にまで下げればならないであらうといふ蓋然性は殆どないの
である。

又別な要素が考へられねばならない。合衆国に於て、即ち大規模な機械化産業が行はれてゐるこ
の國では凡そ労働人口の二〇%が産業に従事して居り、十六%がアメリカの食料供給を行ふ仕事
に従事してゐる。残がヨーロッパでは相当量の食物が輸入せられてゐてさへも人口の約三分の一
が産業に従事してゐる。一方アジアでは美しい不適當な食物供給を与へるために労働人口の約七
十五%が必要なりである。

こゝに在りて文明の將來に於ける最も重大なる要素の中の一つかあり食物供給の世界の段階力に對
して無制限に考へてゐる次第の衆家達によつて非常にしば／＼見落されてゐる一つの要素
があるのである。人類の歴史は次のことを示してゐる。即ち各自自身を養ふことか難し
から人間が如何に開放せられるかに直接に比例して文明といふものは進歩してゐるのであると云
ふことである。原始的な狩獵魚獲又は食物獲得の文化現象に於て人間は彼の次の食糧への一定し
た進歩に彼の生活の大部分を捧げてゐる。産業の發明は一般に野蠻から文明への進行に於ける最

大なる單純なる段階である。と云ふ理由は農業を實行することと人口の小部分を以て見て、人口に對して食物を生産することが出来ないからである。人口の一部は食物獲得や食物生産の活動から開放せられ芸術や技術や科學、即ち文明が前進出来る建築の素材といふものに自身を没入せしめることが出来るのである。しかし乍ら若し人口が農業文明に於て無制限に増加したとすれば、それ程豊饒を有し土地は更に耕作される様にならねばならぬし、それ程効果でない方法（人間の労働と云ふ点で）は手廻が必懸となり、人口の不斷の増加率は食物を供給するといふことについて帰する必懸人運の仕事とならねばならぬ。結局過剰人口の農業社会は何等旨く行かないし、原始的の狩獵魚獲文化と同様文明の進歩には何等等しいものになるのである。

II

世界の大部分の地理的面積に於ける人口問題の調査研究は次のことを示してある。即ち人種！白人、黃種人、黒人等——の大多數の人種の資源の人口問題に於ける密接に夫等が一致してあるといふことである。過去三百年の間白人の人口は約七〇%、黃種人種は三〇%余り増加してあるが、粹な黒人人口は僅に百%を増加したに過ぎない。

ヨーロッパの國民が暗黒時代から浮び上つて来るにつれて人口は迅速に増加し一八〇〇年頃に殆ど三億を算へたのである。この存在條件の下では人口は食物供給より早く増加しつゝ、そしてそれを阻止するものとして、饑饉、疾病又は戦争のみがあり得たであらうと思はれるのである。人口は増加し続けられども未だヨーロッパはマルサスの法則の大概の結果を避けることが出来た。これは次の三つの脱出路によりて行はれて来たのである。即ち食物供給が農業機械や、よりよい農耕法の改善によりて増加せられたこと、工業化が單に物品の生産や輸送手段を大いに増大

せしめなければならず、服装品の交換によつて食物の輸入が出来たこと、又人口圧力はアメリカ

の世界の他の部分に多くのヨーロッパ人が移住したことに よつて救はれたこと、即ちヨーロッパ

人を起源とする国民の中、現在ヨーロッパにあるものの約半数が世界の他の部分にあるのである。

ヨーロッパの人口問題の解決に於て第三の最も重要な要素は出生率における人口の抑制である。

ヨーロッパの国々の大部分は彼等の出生率を過去六十年間に於て三十以上から二十以下に制

限してある。原始的な避妊法は少くとも数年毎知られてゐたが、一八八〇年頃までは利用しな

る更に一般に普及せる効果的の方法とはならなかつた。避妊の実施は法律的限制、宗教的禁

制、原始的な禁忌及僧侶や政治家の訓誡に拘らる。旧教及新教の何れの国々にも普及して

来た。英國、フランス、ドイツ、オーストリア及スイスで産児制限が置換水準 (replacement-

level) 以下にまで出生率を減せしめ、他の多くの国々に於ても人口増加率は早くも或る一定

の状態に近づきつゝあるものである。ヨーロッパの凡そ各々の中たるラスラガ國家は千に付四十の

自然出生率にどういふものか近づいてあり、又ロシアだけは非常に大なる人口を維持する資源を

持つてゐるが、ロシアの若干の大都市では出生率が而もヨーロッパ人口の傾向を辿り始めてゐる。

そして社会経済的の條件がソビエト聯邦に於て改善せられるにつれて出生率は減少するであろう。

アメリカは現在何等直接の人口圧力の諸問題に直面してゐない。カナダも合衆国より大なる人

口に對して適當な資源を持つてゐる。もしも増加の最近の動向がごくなら合衆国も一九七五年

頃には恐らく一億五千万乃至一億六千万の極大人口を持つてゐらう。その後人口は安定状態のま

ま殆ど持続するか又は減少し始めるであらう。カナダは比較的は大なる人口増加を期待し得るか、

どちらの國に於いても人口密度はより大なる産業の強化が又はより低い生活水準を必要とするで

あらう。中部アメリカの諸國は迅速に増加しつゝあり、もし現在の動向がつかなくなら夫等の多くは二十五乃至三十五年たてば人口を倍にするであらう。生活水準といふものが若干の比率の國々には於て高められることが出来るのではないか。数代の中に人口圧力は烈しいものとなるかも知れない。人口が又急速に増加しつゝある南アメリカでは、たとへアマゾン河流域地方の開拓地は若干困難な気候や公衆衛生問題を惹起するけれども、農業拡張には充分な土地があるのである。

オーストラリアや白人種に對する人は問題は風変わりなものである。より大なる数を維持するに出来る國に於ては増加は殆ど固定してある。

白人種は在野の地域の大部分を獲得して居り、そして地球の未發達地及人口の稀薄な面積の大部分を占領してあるが又統御してあるものである。過剰人口の諸國に於ては出生率は低く人口は減

つゝあるか、又は一つの固定水準に接近しつゝあるのである。処が人口の稀薄な國々の大部分では出生率は高く人口は急速に増加しつゝある。政治家又は宗教家の指導者達が西洋諸民族を継

得させて相互に又ロンドンと白人種の集團に従事せしめることかたまりのなかりれば、彼等にとつてそれ以外に何等重大問題は存在するであらう。實際多くの之等の國々にとつて將來の人口問題といふものは最適水準に人口の大きさを維持することであるかも知れない。

アフリカは早くから白人文明の端緒でありながらまだ比較的發達してはいないし人口が稀薄である。その住民の大多数は黒人種に属している。土着黒人種の人口は中つくりと増加しているが、豊富

な自然の資源が中央アフリカにはあるのである。この緩慢なる増加率は十八、十九世紀間に何百万と云う黒人の無制限の移民、白人種による殘留人口の開發及中央アフリカの気候問題を解決す

ることの不可能性をも含めた色々の原因に歸着せしめられている。黒人の人口問題は先が社会的

経済的改善に關係したことからである。

世界人口の半数以上が移住、工業化又は産児制限によつて人口圧から緩和を解放せられ、^{三九}アジ
アを生活している。人口密度は急激に増加している。即ち耕地一エーカーに付日本は四人、中華
民国は二人、印度は一人の割合である。アジアでは若干の保有土地は商業に利用しうる
が、この圧力を緩和するには不十分である。食料生産は多大には増加せられなかつた。一エーカー
についての生産は集約耕作のために既に高いものと推定しているが、一人に付ての生産はまことに
むくいのである。中国の農夫は二百万カロリト平均を收穫するが穀面積を増大するため八十
日の労働を、ついでしたものである。アメリカの農夫は穀物という形態では四日の労働、小麦とい
う形態では二日の労働、豆油というものは三日の労働を、使つて二百万カロリを生産するこ
とが出来るのである。貰つた人間の労働という点ではアメリカの農夫はアジア人が得るものよ
りも凡そ二十倍の食物を生産している。アメリカの農夫のより大なる効率や現代の耕種機械を使用
して、いる事に帰因する。實際彼は生産物向積を増大せしめるために東洋の農夫が行つて、以上
の多くのエネルギーを使用しているかも知れないが、アメリカ人はガソリンや油性物から獲得し
たエネルギーの大部分をもつてゐる。アジアの現代の農耕法はたとへば彼等が多くの人が毎工業的
業務に開放してゐるとは云え穀物收穫高をさう考へる程には増加せしめてゐないであらう。工業
化がアジアで食物供給を増加せしめることが出来るのは、即ち工業生産物を過剰なる農業生産物
を現在生産している国々の食物と交換することも出来る範圍に於てのみである。ロシア、カナダ、
及アルゼンチンを含めて過剰食物を生産することが出来る多くの国々は迅速に増加してゐる。あ
り、そして数代の中には彼等が効果的に増大せしめることが出来る食物の貯てを必要とするであらう。
更に之等の国々はすべて彼等自身の工業をもち又は發展せしめつゝあり、そして部分的工業によ

つては経済的に製作せられ、北より南方へ出まぬ生産物の及輸入することが必要であり、
移民は白人種が世界の地域の殆ど大部分を占領し統御している以上アジアへ向つての期待
は殆どもろくもない。オーストラリア、カナダ、合衆国又は南アメリカの國々は過去に於て彼等が
歓迎した以上の熱意を以て多くのアジア人を將來も迎へるといふことはありもうもないことであ
る。又経済的及社会的の結果といふものを何にも考へずに産んでゆく他の國々の過剰人口に對し
て高慢の生活水準を維持せんがため、彼等の出生率を調節している國々が何故支那の過剰人口
の國民への必要物を供給しなげればならぬかの道徳的如何なる理由もないのである。
アジアの人口問題に對しての單一の合理的な解決は出生率の縮小である。もしも出生率が半に
付くと四十のまゝに存続し死七率がヨーロッパの水準にまで引き下げられたいすれば、全世界は
アジアの人口を支へることには出来ぬであらう。東洋は産兒制限を採用するか又はその人口が嬰
兒殺し、餓死、疾病、又は戦争によつて阻止が行はれたいのである。しかし生活
水準の極めてよくい標準は産兒制限の或る応用なる使用を妨ぐるやうに思はれることもあらう。何
故なら自發的の産兒制限は或る生活水準が達せられるまでは影響を及ぼし始めないからである。
人間が赤裸々なる生活水準といふものに余りにも近く生きてゆくときは彼は無制限な出生の結果
に對しては無関心である。併し乍ら東洋人は人間は罪業に於て孕まれば罪惡に於て
出生するといふキリスト教の教義によつては制約せられたい。そして避妊に對する彼等の
態度はそれに匹敵し得る経済的地位の西洋人のそれよりも更に合理的であるかも知れない。日本
人はある程度まで避妊を採用してゐる。そして日本の出生率は戦前五年に於て二十八位にいたつた
のであつた。もし字個を先して効果的の避妊が利用せられるようになり、生活水準といふものが
一時的に産業發展によつて高められることかできるとするなら、避妊の實行はアジアを通じて

括つて申くであらう。

III

白人種はマルサスの法則のより重大なる結果をまげることが出来て来たが、出生調節は西洋國民の幸福を脅威する他の諸問題を惹き起したのである。産児制限の實行が一般に行はれてゐる處では、國々に於てはより貧しき経済と教育の階級の人々はより上層にある社会経済のゲルマンの人々に於けるよりも大へん早く子供をうんでいる。合衆國の狀態は大概の西洋諸國の動向の典型例のものである。一九二五年の都市社会における出生率の調査は次のことを示してゐる。即ち一年の収入三千弗以上を持つ白人家族は生殖率の四六である。この数は安定人口を維持する子供の数の半分に半分である。又収入千五百弗から二千弗までのものは〇七〇であるが千弗以下の収入のものは生殖率の九三であつた。しかしこの置換率を超過した都市の殆どが不祥の人といふものは教育を要する人々であり、彼等の生殖率は一四三である。同じような動向が教育にのみならず、即ち大学卒業者は〇七五、高等學校出は〇七七、七年級以下の教育のものは二一八である。通常の時でも経済的に最小限度の子供を養ひ教育することから来る人口の三分の一は次の世代人の三分の二を生産する。農村の出産率は未だに置換率よりかなり上廻つてゐる。しかし経済状態と家族の大いさとの間にも同様な関係が山村社会にも見られるのである。將來の世代の大部分の位置を現存社会成員のより貧しいより無知なる人々に依存せしめてゐることとは、個人にとつても否民族にとつても最善の利益には何等助けとならぬのである。貧乏と無知とが若くは悪質遺傳の結果であるとするとするなら、かゝる人々の過剰なる出生率はその民族の平均收

発能力にまで下せられるであらう。一方むしろ選境的及社会的條件が高い出産率を説明するも
とせずれば、その結果は各種にわがましからざるまゝに成るのである。反せば、貧しい及無知な
母親は彼等の子供をやしなうための好都合なる條件をあたえることが出来ないからである。選境
環境も人種の心身の發展における變異に對してその責務を負うものであるが、之等二つの要因
が全く相互に依存している以上、大等の比較上の役割を決定することは困難である。若干の證據は
即ち固有の能力というものは社会経済的の狀態に若干關係しているが、その相関は係は高いもの
ではなく一般に極端な變質に基いていふことである。人口の大多數のものに對しては個人
の才能というものは家族傳、人種的及宗教的な以上の添加せるものゝ居狀しかたの影響を
含めた選境的な要因によりて、決ませられよう。思わぬものがある。

現在色々な社会経済的階級の異つた出産率の中で最も重要な見方環境的の要因である。多くの
場合、貧乏と無知は個人的及社会的の責任感の欠如と關係している。この責任感には家族傳習とし
て未來の世代へと流通せられていたものなるがある。かかる狀況のもとでは平均的又は優勢な
智能をもつた子供でさえも重大なる障礙の下に人生を出發しても、若干のもののみが、かかる環境
の効果に打ちかつことが出来るのである。家族環境が子供の發展に於ける最も重要な要因の一
つである以上、その智能として眞の機會均等はありえないし、又両親の社会的及経済的の狀態は
決して平等化せられえないのである。適度に均一な環境を多える唯一の方法は救貧院の凡その子
供を養ふことでもあらう。そして多くの人々が承認していることは、家族制度の除去すること
は余りに高価な犠牲なので、環境に於けるより大なる均一性というものを擔うことが出来な
らうといふことである。

例え均等は好都合なる環境が凡てに与えられたとしても、人間は遺伝素質の相異のため、智能や能力に於いて変動しつづけるを逃れず。最も好都合なる環境での實際の習識や訓練が如何なる量でも彼等の起源において遺伝的である心身の欠陥に対しては十分に代償することは出来ないのである。又より優位なる環境の効果というものは遺伝的ではなく直接に次の世代へと移行させることの出発点といふものであるといふことも理解せられねばならない。もしも経済的成巧や文化的發達が選伝能力というものと相関しているものであるとすれば、貧乏人や無智な人間は常に我々と共にあるべからず。凡その人に対して高い生活水準を与えるという夢はむしろ前途程遠いものより先に覚められるし、又マルクスの「各人より其能力に依りて各人へは必要にして」(From each according to his ability, to each according to his needs)なる原理の上に展開せる理想郷の社会によつてのみ到達せられるようにも思われるのである。かゝるきり又ト教的理想が社会進化の人間の現段階に於ては到達せられようといふことは起りようにもないように思われる。権力や鬼術によつて維持せられねばならないような如何なる社会的又は宗教的のイデオロギイも教育を以て人白に於ては長く耐えうることは出来ない。人類そのものについでその永久的な改善は如何なるものをも個人の遺傳的な素質といふものに依存しなければならぬ。原始的な社会に於ては精神病者や白痴はそう長くは生き残つていない。何故なら自然は多くの効果的且白痴殺しの仕掛を持つていふからである。人間の最近の文明では社会が夫等を保つに耐えないような欠陥者があるに於ては、しかし白痴はあとから、のくられていく。現代の異つた出産率の状況や更に人類的な文明の下では彼等の生産は増加しつつある。白痴といふものは原始社会に於ては現代文明社会に於ては自らを消滅すべき生物学的なる動向を有している」といふすべからぬ心理学者

の傑出は何等實現はない。人間への環境的效果の強き暗道者なるホルゲン（Haldane）も火
のこき容認している。即ち平均知能商（average intelligence quotient）への期待は現在の社
会階級の興つた出生率のいくばく一世代にのみ一二%の割合を下降してゆくであらうとい
うことである。精神的に不完全なるものや異常者は生産されのけゆるであらう。凡そ
者の断種をしても次の世代で約十%程の数を減せしめ、その次の世代では比較的小さな減少を
ものか、知れぬいが彼等は除去せられることは出来ないであらう。何故なら多くの正常なる個人
は精神的な缺陷に對する遺伝因子を帯同して居り、不たため、結婚し精神的に欠陥者であり異常
者である若手の個人を生産しつづけるであらうから。我々は科學的にも社会的にも未だ人類の遺
伝素質というものを改良する程十分に大きなことをなす位置にないのである。最も好都合な現存
の環境下に於ては、社会的に不適当なる程度の遺伝的に自身の欠陥者たる人々は断種せられる可き
が、又他の方途を再云ふ子供をうまないようにせられるべきである。實際かゝる行爲は多くの西
方から又、少くとも社会的に適合した個人の出生を保護するでもあり、しかし欠陥のある両親は
兄弟の子供に對して適當な環境を与えらるゝと、生まれないのである。そして我々は如何なる社会
組織の下に於ても我々の未來の世代に對しては、かゝる本源に頼る可きであつてはならぬとい
ふのである。しかし人類の遺傳的改善における何か眞の進歩は人口の遺傳的實質化を防止する以上のものを含
まねば成らぬのである。結局人類の遺傳能力を高めることは全く可能なことではなからうか。我
々は先づ人間の遺傳に關するより以上の知識や性とか生殖とかに對するもつと合理的なる態度を
必要とするのである。

自然に於ては生き残つていられる人々の生殖率と云ふものが一般に過剰に行われ、
自然淘汰によつて進化的価値があるのである。高い人類の出生率を以て進化的価値ありと信ず

五人は自然淘汰というものが最も思慮深い、そして最も侵略的な個人を産みだすものである。文明化せられた近代社会にあっては、かかる除去は何等道徳的の正當なをもつていえないし、社会的にも環境にも環境に於ては有害であるかも知れない。我々の現代世界に於ける生物学的適合は自然の原始的環境に於て最もあるものよりも一つの異つた次元のものなのである。我々の経済上の穀類の植物の大部分は我々の家畜動物の多くは自然界に於ては生き残ることには出来なすもあらざる元来も夫等は夫等が野生種の環境に於てよりも人工的の環境に於て夫等の目的にははるかによく適合しているものである。現代の世界に於ては生残価値 (Survival value) というものは人類の価値といふものに於ては確實な根據のある測定標準ではない。

色々の異つた生殖力の効果についての稍々混濁なる状況や人口の生物学的及宗教學的の人類の要素に及ぼすその効果等は世間のあらゆる地方では明白なものである。ヨーロッパではスラブ族を起源とする人口の比率は一八〇〇年には三十四物であり一九三〇年には四十六物であった。而してロシアのみが過大人口を支持する資源を有しているためにこの比率は更に増加しついでである。現今西ヨーロッパの諸国は平均二〇以下の再生産率に於て減衰人口 (Declining population) をもっている。此がロシアは戦前少くとも一五の再生産率を維持してゐるものである。もしこの動向がつかくとすれば西ヨーロッパの人口は減少し、一方ロシアの人口は二倍もつたがなかばに倍に行なうであらう。生物学的には人類群がヨーロッパを支配するといふ程の差とはならぬが、それでもロシア支配圏のもの影響というものは恐らく社会哲學や宗教に關係してのみ重大なことではない。カナダに於ては又宗教的人種群の色々の出生率というものが社会的の結果を有してい

るか。知れないのである。英語を話す人口に對してその再生産率は1.0以下であるが、フランス語を話すオランダ人に對しては1.5以上である。比較的に数年以内のフランス種族はイギリス種族よりも教に於て劣るをあらわす。

ポルト・リオ (Porto Rico) は殆ど島に百哩幅三十五哩の小島上に凡そ二百万人の人口を有している。天然資源は制約せられており、農業資源はその生存人口を維持するには殆ど適当でないものである。それをもその人口は年々一・三%の割合を増加しつつあり、もし適当な食物も医薬も絶えらるならなお一層早く増加するであらう。現在の割合でもその人口は三十年に倍々なるのである。

米流時代中に見え九万人のポルトリコ人がニエトヨークに移住し、一九三八年には凡そ六万人が救済の対象となりた。経済学者はこのポルトリコ人口問題を解決せんと努力して多岐を極めたのであるが、誰一人として單に合理的な面も明白なる解決をえし示唆しなかつたのである。

IV

彼等の子供を養育しうる最低の人々が何故に最も大なる家族を有しているか。故ハール博士は合衆國の都市の産科病院に於ける三万人の婦人に對する調査に於て次のことを示した。即ち自然生殖力と仰う点では種々なる大多數の種類の、宗教的、教育的又は経済的の階級間に殆ど差がないか又は全くないことである。種々の階級の實際の出生率に於ける差と仰うものは主に人工的産児制限の普及と効果の差に帰因し、小さな範圍では結婚率令や墮胎の實行に原因してゐるのである。ハール博士は一人以上の子をもつた白人の婦人の間では産児制限が金持ちや暮し向きのよい母親の中約八十三%實行されてゐること、及び百年間の婚姻機会卜つて彼等の平均

出生率は六十歳であつたことを見出したのである。工業および経済環境はこれらの人々の平均
十二%が産児制限を行ひ、その比較的の出生率 (Mortality Rate) は百九であつた。
もつと低い収入階級でも約半数が産児制限を行ひ、その出生率は一三二である。思ふ非常に貧し
い人々ではわずかにその三十五%が産児制限を行つてゐるか又は行つて試みてゐる人で、彼等の
出生率は一五三であつたのである。同様な傾向は教育に關しても見出されるのである。基礎教育
のある人で産児制限の方法を使用してゐるのは半数以下であるのに、大学を卒業した人では七十六
%が産児制限を實行してゐた。

主として宗教的及人種的の群の出生率では差があるが、その差と云ふものは主として此事の階級の經
済的及教育的水準に於けるものと一致した差に歸着せしめ得られるのである。ハール博士の調査
は次のことを示した。即ち産児制限はユダヤ人では六十七%、新教徒では四十五%、旧教徒では
五十三%、黒人では十七%を行つたといふことである。これらの群の教育状態は高等學校出
と大學出との%を示すためであるが、即ち新教徒は四十八%、ユダヤ人は四十四%、黒人は三
十%、旧教徒は二十四%である。これらの經濟状態については何等資料がないのであるが、彼等
が彼等に於いて到達した教育程度と關係して期待しうることはユダヤ人は一般に高い經濟状態に
あり、黒人では低いものであるといふことである。かゝるユダヤ人に於ける産児制限の比較的
高い影響や黒人に於ける低い影響は又一部分は人種的傳統に歸因してゐるかも知れない。即ちユ
ダヤ人に於ては家族の責任と云ふ感じや、個人の進歩に対する強烈なる慾望があり、黒人に於て
は過去及現在の經濟的要素によつて條件付けられるその無責任である。然し疑問のあり得ない
ことは新教徒も旧教徒も黒人が同様な經濟的教育的地位にある場合は同じ程度に於て産児制限

を実行しているといふことである。旧教徒や、より正統的な新教徒宗派の人々のより高い出生率
は之等団体より低い教育的及経済的標準に主として帰着せしめ得るのである。教会はかゝる異
のわ出生率に於ける一つの要因ではない。但し之れが光榮ある無知と貧困によりてより低い社会
経済的標準に影響を及ぼす場合は別である。

産児制限の実行がヨーロッパやアメリカに於て普及しているとはいへ、貧乏人や無知なる人々に
よつて広く効果的に使用せられはしない。これには若手の理由がある。避妊法の知識がな
いことかその一つである。但し誰でも實際にはその報告に興味を持ち、そうなしうるを
あわうが
その製造普及取締法提が淫うな文筆の如き報道を区別してかゝる郵便物を禁止して
いる合衆国に
於てはへも正しい知識が一般的になつていない。もう一つの別の要因は性や出産と云ふものに対し
て一人間は罪業に於て懐胎せられる ("Man is conceived in sin") と云ふキリスト教の独断よ
り結果する迷信的互態度である。一般に最も重要な要因は無制限なる生殖の将来の結果に對す
る責任感の欠如と無關心さである。かゝる人々の哲學は神とか政府とかい彼等自身の努力を
無視して、彼等の必要なるものを与えてくれるであらうと云ふことにあるように思われ
るのである
かゝる科学時代の進歩は避妊知識の現在の地位である。大多數のヨーロッパ人やアメリカ人は出
生率の調節の必要を認め避妊知識の適當なる宣伝發布を異議してゐるのである。しかし多くの國
々は命を限定的な法律や原始的な禁制を持つてゐる。合衆国に於ては産児制限の
実行者の五
以下が最も信頼しうる産児制限の臨床講義によつて推奨せられたる方法を用い、
凡そ二十物が聖
書からえた他等の産児制限の知識を得てゐる (創世記 三八、八九) この状態は故ハ
イル博士によ
つて力説せられたのである。博士は書いてゐる「一つの群として考えられる之等婦人達
が産児制
限について知つてゐる知識は主として母親とか、夫とか、友人或は藥種店の店員等
から通告せら

水たものである。即ち、夫等々人々は又その知識を綿密に云つて同じようは源から抽き出したものであり、結局アララット(Alaratt)のあの着船地と云はれてゐる)に逆上陸するとなつたやうなものである。医学の專門家が又産児制限の技術を考案することを感じてゐる。一九四三年に始めてアメリカの医学協會の月刊雜誌が、この事情を取扱つた小論文を授けたのである。劇本的な産児制限に対する唯一の重大なる交際は今はカンソック協會から起つてゐる。但し、教會は時同環境というものに基礎を置いた自然的なる産児制限を許容することによつて、その傳統的なる態度を修正はしてゐるのである。全く何故人工的の産児制限が不道徳と考えられ、過期的なものに造徳的であり許容せらるべきであるかは生物學者の又は一般の造徳家に於て、又も理解し難いものである。恐らく眞の理由は次の如くであらう。即ちかゝる過期的方法は全く信頼すべきものではないと云ふことである。仮令教會が一九三二年以来自然的な産児制限を許容してゐるとは云え、若干の教會の役員や代表者達は猶産児制限は神の撰に類くものであると云うことを維持してゐる。亦いにも多くの旧教徒達は彼等の指導者達の意見に賛成してゐない。産児制限は長い間フランスやオーストリアで実行されて来た。そして今やイタリ、スウェーデン、ポルトガル、ベルギーに普及してゐる。アメリカではフォレストンマゲン(Foreston Mager) (註)によつて刊行された最近の輿論調査によれば、二十歳より三十五歳までの旧教徒の婦人達の七十%は産児制限の知識と云ふものは、凡そその既婚婦人に利用せられるやうにならざるべきであると信じてゐると云ふことである。ハール氏の資料も、旧教徒と雖もこれと平行した社会経済的地位にある新教徒と同程度の範囲に於て人工的産児制限を実行してゐると云ふことを示してゐる。合衆國の人民の八十%以上が産児制限の知識の適當なる宣伝を信じてゐるとは云え、我

々の古風な戒律や原始的な禁制は、知識を抑制し産兒制限工業をある意味で墮落状態に保
つていたのである。

V

人間は人口の増加も分布の問題を解決するため殆ど意識的の努力を拂つていない。白人種は
命や被奪の資源に施して人口を調査する立場にある。しかしかゝる進歩は個人の先導と行動と
によつて到達せられるものであつて決して如何なる計画人口政策の結果としてでもないのであ
る。政治家、宗教家及実業家の指導者達は、大なる増加する人口の味方であつた。かゝる態
度は新しく定着した又は稀薄なる人口に於ては正当化されるのであるが過剰人口と云うものは
政府、宗教又は実業界の中での最善の利益に資するものではないのである。国家主義的な種
を誇り、又その教と領土とに於て拡張しなかつた一國民と云うものが、退化した老衰し行く國
民があると云うかゝる態度に對して奮起を要するべきであつたのである。

もしも戦争と云ふものが續くべきものとすれば最適なる数を超過した人口に對しては若干の正
当化がある。しかし乍ら戦争状態の在界に於ては元々大なる人口は軍事力を意味しはしない。

即ち印度や支那は合せて日本の人口の約十倍程である。近代戦争に於ては市民及軍人の何れに
對しても教育と技術熟練と云ふことが本質的なものである。

過去に於ては國家は領土と資源を附加獲得せんがために戦争に訴えたのであるが、現代ではか
ゝる行為は一向に供したばかりである。既に人口過剰になつた國を占領した處でもその侵入し
た國民が根絶せられぬのでなければ、それ以上の生活空間と云ふものを招来することはあり得
ないのである。もしもその國民が根絶せられないとするならかゝる政策は領土と云うものは

この北が平和であつた時に可能であつた以上の河ものかをも北自身に對して又は征服者に對して与えることは出来ないのである。即ち征服民族によりて占有せられたるが故に恐らくは北産生産しないであらう。

民族政策に於ける最も大なる過誤は既に人口過剰になつてゐる國々に於けるより大なる人口に對するその要求である。ヒットラーやムツソリニ及東條等はより高い出生率を要求したのである。

恐が同時に過剰人口についての不平等も領土擴張に對する必需性を要求してゐたのである。何故かイギリスやアメリカ及び日本が殖民地獲得へと拡大して行く機会を持つたのが奇考である。兎も、比較的強ど人口は母國を後にして立ち去つては行かないのである。他國への移民が自國又は外國の政

府によつて阻止せられる前は日本のみが自國の移出民を援助し資金を調達する若干の可成る努力を拂つたであつた。

チャーチル首相の英國に於けるより高い出生率への要請は彼が現在の水準以下に大いに下らない。よつた英國の安定人口を建設することを希望してゐる場合に於てのみ、或は彼が英國以上の移出

民によつてカナダ、オーストラリア、及びニュージーランドの人口を増加したいと欲する場合に於てのみその要請が正当化されるのである。これらの植民地はより大なる人口を維持することが出

来として實際必要としてゐるのである。しかし乍ら仮令チャーチルが英國に於けるより大なる人口に對して彼の計画に成功したとしてもその國は甚しきものである。英國は單に英國が高度に

工業化された社會を有し、そして原料、燃料、市場の兩方を提供すると云ふ理由によつてのみ合理的な状態に於て現在の人口を維持するのである。英國は何等工業化といつても、技術的熟

總て云ふものにして、他よりしは、いかに、却つて、結核地や他の國々が、彼等自身の工業を發
展せしめるであらう。かゝる時、かく北は、美國はその事業を維持するより、以上の大なる人口を持つ
か、も知れない。そして、輸入食料の實際の供給を保證して、工業的利益と云ふものを何等有さな
くするであらう。この究竟の状態は、殆ど百五十年前、マルサスによつて、体得されたものであり、又主
張大臣のイリアム、ピットは、録紙にも、マルサスが正しかつたことを洞察したのである。かゝる人は
多くの子弟を儲ける人々、何れもその國を富ますものゝあると信じていた。ピットは、マルサスの人
口に關する論文を讀み、かゝる彼の見解を變へ、彼が、運賃を下げれば、ならなかつた人々の意見に
従ひ、その見解を、下院に於て述べ、一八〇〇年の彼の法案を、取消したのである。

國家主義的 人種的の誇りは、常に戦争や侵略に於ける一つの要因であつた。種々なる國家の人民
は、もしも、大寺の國家又は、夫等の人種と云ふものが、神に由つて、選ばれ、文明の源を、もたらすもので
あると、彼等が信じた、かつた、としたら、人間以下のもの、であつた、方、かう。一般に、我々の信じているとこ
ろでは、白人種の急激なる増加と、膨脹は、望ましいもの、と思ふのであるが、多くの日本人は、彼等の
文明と、人種が、世界を指導すべく、運命づけられて、いると、云ふことを、全く、確信して、いるのである。然
し、その人種的優越性の神話に、對しては、何等、生物學的、な、正当な、理由は、ない、のである。凡ての、人種は、
文明の、文化的、及、經濟的、發展に、胛身して、来た、のである。尸史の、流れの、同に、起る、帝國や、文明と、云うもの、
の、興亡の、原因を、その、民族の、平均、先天能力と、云うもの、に、於て、と、相応した、何等かの、興亡に、求める
ことは、出来、ない、のである。頻發する、在歐、戰爭に、於て、より、強壯なる、積極的なる、人向を、甚しく、損失す
ることは、多くの、國家を、弱化せしめた、のである。そして、ロンドン、週刊新聞に、印刷された、四行詩の中
に、その、真理が、語られて、いる、であらう。即ち

強き人々は死し弱き病める人々は生さず
強き人々は死し弱き病める人々は生さず
時経れば更に生みなん、病める我が同胞の弱きを

税を収むるに貧しく將た養はんに数多なり

科学の見出せし過此処に於んば、是亦悽惻なるとも

しかし乍ら人類の遺伝物素質の観点から見れば、戰爭とか又は夫等の罪惡が過去の進化からの固有の知的な受容力と云ふものに於て何等かの非常に認め得る程にその減少の結果すると云ふことはありそうにも思われぬ。帝國の興亡は他の原因に帰着せられねばならぬ。

人間に於いては多くの種と云うものより種家畜動物を色々と異つた仕方を飼育すると、その肉體の構造や體質が色々と變化すると同じ様に形態学的の特徴や心理学的の特性に於てまさしく異つたものである。しかし何れの場合に於ても我々は知性と云うものに於て先天的に相違があると確信することは出来ないのである。ある点ではこの比較は正當化されぬといふよりは、酷しい過失や同種交配によつて齟齬せしめられ来た家畜動物の種属より人間の種属と云うものが選ばれて異種接合体であるからである。知性に於ける人種的相違と云うものは例えすべての人種が起源的に一つの共通の血統から由來しておつたとしても、かかる相違が起り得たものではあるかと確信する遺傳学的な根據はあるのである。若しも人類史の何かある時期に一つの人類群が孤立し非常にその数が減少したとするならば、その極限人口に於けるある遺傳因子の頻度は夫等が殆ど消失してしまつたであらうと思われれる程大變低いものとなるから知れない。その効果は本質的に人工的同種交配の効果と同様であり、生き残つたその種属の遺傳質の如何によつて、より善いか又は一層惡い一般にはより惡い人種と云ふものを安定せしめる傾向となるであらう。多くの人種の範圍内に於ける大なる身體的變異に於て何等かある遺傳的限界が起つていないと云う適當なる證據は

の不安、しかし彼等の國々の中で必ず孤立化した社会が極限された遺伝因子の頻度の不利益なる効果に身を任せていると云ふこと可能である。ホルゲインが暗示した如く、人口の移動及混血に關して必然的の結果を伴ふ輸送の現代の方法に關する紹介は有害な遺伝因子の効果を抑えるに相当価値あるものとなる可きである。

色々白人類の群は試験や實驗によつて計量せられていゝるよりに全く智力と云ふものに於て異つてゐるものがある。相対的の智力と云ふものは逆に遺傳と環境と云ふものに依存してゐる。合衆國でなす北にアストは次のことを示してゐる。即ち最近の南部ヨーロッパの人々はメキシコ人や黒人と同じく程度の低い得点を得てゐると云ふことである。明かに之等の人々はその土着生北のやメリカ人や或は更に殆ど同程度の社会的地位を授けてゐる。西部ヨーロッパの更に進歩した社会経済的環境に生れた人々と競争する其の教育的背景及他の環境的條件を有してゐないものである。やメリカ南部の村には土着白人は黒人より高い得点を得てゐるが北部の都市では南部のある地方の土着白人を問題にならぬ程抹殺してゐるのである。好都合な外的環境の下に若し世代を経ると云ふことが傳統的となつてゐるかも知れない人種的態度に對して補整するに必要となるかも知れないと云ふことを我々は体得しなげればならない。しかし乍ら問題は複雑してゐる。この國では黒人の劣つてゐる経済的狀態は彼に同等の経済的又は教育的機会を与へることを拒否する人種の差別待遇に歸着してゐるのである。しかも人種の差別待遇が公然に直つてゐないからじつでは黒人は今なお劣悪な経済的狀態を占めてゐる。そして此處では逆説的にその地位というものは黒人が社会的地位に於て比較的平等性に達してゐるために敢て彼等が経済的狀態を改善するに努力するよう強制感を痛感してゐないことなる事実に歸因してゐるのである。カナダのフランス人は種族的に同様根柢の人々でありフランスの母國生北の人々と同様な文化的背景を有してゐるが、一つの群として彼等の社会的、教育的及文化的發展はヨーロッパの彼等の従兄

第運と同一歩調を保つていない。如かイギリスイ系の子孫が人はこの新世界に於て英國の文化的經濟的の伝統を維持してゐるのである。合衆國に於ける支那人や日本人は彼等がイタリヤ人、メキシコ人及黑人達が受けてゐると見ても同様に社會的經濟的の差別待遇に服してゐるから、去着生れのカメリカ白人と同様に平均して精神智能検査に於て高い率を示してゐるのである。(註)

讀者注意) アシヤに於る哥烈行る自然淘汰が此の在民の公衆的及知的水準と云ふものを高めたと言ふことは可能であるが、之等の人種的善異と云ふものは又環境とか人口の色々の例に於いての出だらぬでない淘汰及色々の人種の伝統とか程度に對する反応に於ける差異に帰因せしめ得られるといふことの方がより一層ありそうである。ドイツ自己自身の人口中の他の民族や他の人種的要素の人々を根絶することに対して、ヒットラーが聲明として使用した人種的優越性の神話については確かに生物學的に正当な理由は何等存しないのである。

もしもこの世界に於て人間の初期の常態 (Milieu primarily functional) が此の時期に對する人間の魂と云ふものを与えるものとすれば宗教の指導者達が無制限する出生率を求め、訴ふる若手の正当な理由が存する。我々は次のようなことを教へられてゐる。それは神が子供等を贈り給ふのである。そして凡ては遺傳的な或は經濟的な家族の状態には無関係に歡迎されねばならない。かかる問題に於て神の意志を論ずる事に於て故カトリックのハイエス (Cardinal Hayes) は次の如く書いてゐる。

「たとえ両親の、道德的、精神的又は肉体的な醜狀によつてその瞬間に若干の小天使が目の前に忌まはしくも畸形的にも文明化された社會に於る汚點として出現しようとも、我々は救はるべき不死の靈魂がこの目に見える出来損つた畸形的な下にもその中に呼吸してあり、そして天國の神聖な

る世界内では、凡て永遠に祝福せらるべきものとして生きてゐるのであると云ふ此のキリスト教的思想を見出つて代はらないのである。

香葉に驚くべき論文が産児制限に関する週期的方法を使用することをもカトリック教徒に許した

ピウス法王一世後十年一、九四二年に故カール・オコネル(Carinal O'Connell)に依

つて書かれたのである。カール・オコネルによれば、教会の教訓も丁度其のことを証明してゐる。即ち

人工的産児制限の實行はその仕方によつて個人によつても家族によつても否その民族によつても

悲惨なる結果を招来することと避け難いことである。例へば西ヨーロッパの人々と印度支那及

日本の人々と平和時になると戦争時だとを同様に比較してみよ。一般にフランスは産児制限の結

果の恐るべき実例として引用されてゐる。イタリヤはその拡大人口に對して稱讚されてゐる。

眞正なる恍惚の女神は何等戦争と云ふものを準備するものではなくて平和なる時代に、母衆を導

つてその人口の平均した文化的及社会的發展をもたらしめるものである。ベールが戦前のフランスに

ついで注意した如く、フランスを不幸なる又は悲惨なる國と考ふる人は無智であり馬鹿な人であ

る。たとへば、ヨーロッパの他の國々がフランスの如く出生率を低くしたとして他の國々によつて攻撃

せらるると云ふ何等の理由もないであらう。國際カトリック福利協議会によつて一、九四二年に刊行

された「聖戦」と題したパンフレットでは、軍事的便宜の理由に基いて大なる人口に對する必要性

に多くの強調がなされてゐる。平和の君キリストを求めて自任したる代辯者が軍神の必要につい

て新程まで多く強調するのは全く不可解である。

ある宗教の指導者達は貧乏とか無智を精神的な發展と結びつけ、富とか教育を物質文明と結びつけ

る傾向があり、かくして家族とか又は國家資源より超過した大なる人口を正当化しようとするの

である。事實はかかる哲學を支持しない。單に自己の生計の道のために朝早くから夜晩くまで働

かねばならない人々ばかりの精神の發展に對しては殆どその機会を失は意向をも有してはいない
 である。彼等は既北主義の宗教の中に逃避しようかとも知れないが、しかし、フーシイ (The Style)
 が注意した如く、誠に自己催眠的な哲學こそ却つて彼等が生活している汚い家屋や彼等が食す
 る乏しい食物及彼等が彼等の神々の幻影を形作つて居るその土や木よりも更に物質的なのである
 人間の精神的な發達と云うものは、自然と云うものについてのより大いなる知識と統御及彼
 の隣人へのより大いなる正しい認識や理解によつて最上に達せられるものであつて、合理的な思
 想を抛棄したり神秘主義に逆戻りするこゝによつて發達せられ得るものではないかである
 過去の産業の指導者達は労働と市場へ供給するだけに大なる人々を可としたのであつた。即ち
 労働の過剰は低い賃銀と高い利潤を意味したのであつた。實業家は今や完全なる人口の幸福と
 云うものは産業の發展に於て考へられねばならぬと云うことを体得し始めている。現代の産
 業は健康な知性ある労働者を要求している。そして、健全と教育は生活水準と云うものを向上
 させることによつてのみ到達せられ得るものがある。労働の能率増加は高い賃銀を払つてもそれ以
 上償つて余りある可であると同時にその人口の購買力は増加せられ得るであらう。しかし、自ら
 生産増加と云うことが繁榮への唯一の道であることはよく理解せられねばならない。仕事も勞
 働も、能う限りの少量を生産し得る限りの多くを求めよ。なる倍條を抛棄しなさればならない。

政治家や宗教家の指導者達はより高い出生率に對して彼等の訴えと云ふものに殆ど成功してな
 しては出合つていない。それでもこの目的に到達する間接的な方法が今や彼等の自由になつ
 ている。高い出生率を要求する將來の政治家や宗教の指導者は人民をとり單に貧乏な無智なまゝに
 しておくことを求むるべきである。貧乏と無智は高い出生率に結果しないといふことは決してない

のである。総人口に於ける一つの増加と云うものを保証するためには過剰なる死亡率を消ぐに十分なる程生活水準と云ふものが高く保たれていなければならぬが、しかし日本に於ける水準は非常に高い事を必要としないことを証明している。或る程度の技術的習得がこれに労働者の下層民にとつて維持せられうるものである。かゝる人々を新しい秩序に役立たせるように維持するためには効果的な宣傳や宗教組織が必要とせられるであらうが、しかし政治的乃至宗教的な宣傳は散漫ある社会に於ては尤も効果があるのである。

近き将来に於ける重大なる問題でもあらう。この数年内は大部分のヨーロッパの国々や合衆国に於ては出生率の低下は阻止せらるべきである。しかし恐らくは出生率と云うものは之等の国々では下降しつづけるであらう。若しも我々が市民一般に対して社会経済的状態を改善することを豫期しうるならばこの要因でも出生率を变化させるであらう。輿論は産児制限の知識の普及を圧倒的に有利ならしめているので應に凡ての人々、否最も無智無責任な人口を構成する人々の間にも益々産児制限が流行する。婦人の経済的独立が増加することと又若手の効果をもつにちがいない。

三三人の子供が母性本能を満足させるに十分であり、それ以上を欲する近代婦人は極めて少いのである。最近二十才より三十五才までの金持ちの若いアメリカ婦人についての調査によれば平均子供数は二・六が欲せられてゐる。現在の結婚率や死亡率でも一人の母親に付平均二・六の子供は安定人口を維持するでもあらう。しかし安定人口だからと云つても自発的の親子によつてこれが維持せられ得るとは、親子おることの経済的因果が若手変わるものでなければ何事保証されないのである。ヨーロッパでは家族手当、結婚資金、色々の種類の母性保護によつて出生率を増加する試みがあるが比較的幼稚で成功してゐないのである。

世界の人口問題は複雑であり、歴史的である。もし出生率が制限せられぬとしたら人口は高い死亡率率により、かみ阻止が行はれぬ。かゝる状態は近代まで行はれてきた。そして今やアジヤの多くの部分に存している。しかし若し出生率が自由意志的の親子たることに依存してゐるとすれば、戦争又は平和の何れにとつても衆観人口を維持することは困難であらう。多くの国々は今やかゝる状態に直面しており、問題はそれが解決せられる前にものと烈しくなるであらう。

より大なる世界人口と云ふものにとつての余地がある。即ち最大多数の人々が繁しき度いと思つてゐるその生活水準に依存してゐる余地がどこに位あるかの問題である。高い生活水準と云ふものが三十億の人々に与えられ得るものもあらうか。恐らくはもつと急しい生活水準なら現在のものを出来る生活用し得る世界の耕地資源で八十億の人々が生存し得るであらう。

白人種は現在アジヤを除いて世界大陸の凡てを占有してゐるか又は統御してゐる。彼等は極大余地を多く持つてゐるか彼等の出生率は下降してゐる。そして或る地方では置換水準以下になつてゐる。黄褐色人種はアジヤに用ひ込められ北へゐる。彼等は過剰人口、高い出生率と高い死亡率とを示してあり、而も領土拡張に対して何等の機会をも有してゐないのである。黒人種の人口問題は彼等が白人たる市民として文際してゐる白人種か又は植民地の統御を行つてゐる白人種かによつて左右されてゐる。

既に人口過剰になつた隣接地域へ侵入することによつて人口圧力の問題を解決せんとする試みは正当化せられることは出来ない。もし侵入した地域の民族が根絶せられぬとすれば、人口圧力と云ふものからは何等解放せられぬことは出来ない。又人種的優越性に基いた斯う行動に對して

何等の生物学的な正当な理由に上りつゝある。人種差と云ふものは肉体的特徴や教育状態にあるのである。しかし彼等が運命的な知性と能力とに於て異つてゐると云ふ證據は何等なものである。現在存在してゐる文化的、経済的及知的な差異に云うのは全く環境と云ふものの差異に歸せしめることが出来るのである。

出生調節と云ふことは世襲の多への地方に於て重大なる事柄であり、高い生活水準に到達してゐる国々には於ては一般に行われてゐるものである。しかし之等の国々では産児制限の實行は個人の経済的及教育的状態と互に關係づけられてゐる。経済的に最も子供を持つことが出来る人々は十分に子供を持たないし、貧しき人々は彼等が養育することが出来る以上の子供を持つてゐる。之等の異つた出生率の結果はその異つた両親の経済的教育的な状態に對して責任のある原因的要素にも拘らず、個人的又は家族的發展に對して不都合もある。現在、環境的要因は人類の發達及進成に於ける最も重要なものであるが、しかし結局我々は人類の種別と云ふものについて何等かの恒久的な改善と云ふものを見つけては遺伝的な原理に頼らねばならぬのである。

KARL SAX IS Professor of Botany; Arnold Arboretum, Harvard

University. His publications include: Chromosome Relation

in Wheat 1921; the Nature of Size Inheritance, 1924; An

Analysis of X-Ray Induced Chromosomal Aberrations in

Triticum aestivum, 1940.

藤崎 技 登